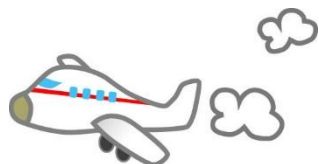


素敵な出会いと経験を大切に



人文学部 人文コミュニケーション学科

3年 佐々木美加

今年3月から8月までアメリカのイースタン・ワシントン大学に留学しました。帰国して1ヶ月近く経ちましたが、今でもアメリカに思いを馳せているほど充実した5ヶ月間でした。今振り返ってみると本当にあっという間だったなと思います。



友達や家族と離れて一人で見ず知らずの土地に行くという不安は今でも覚えています。渡米したばかりの頃は寂しくて泣いたこともありましたが、自分の成長を感じられず悩んだこともありましたが、でも、辛かったことや苦しかったことがあったからこそ成長することができました。



私が留学先で受けたのは英語の語学コースの授業で、実践的に英語を学んでいました。最初はついていくので必死でしたが、次第に先生の話も全部理解できて余裕を持てるようになりました。そこでの授業はすべて参加型で、常に発言やグループワークが求められます。リーディングやライティングの授業でさえ、プレゼンとディスカッションは日常茶飯事でした。私は昔から人前に出て話すことが苦手なのですが、回数を重ねることで自信がついて、緊張はするけれど苦ではなくなりました。毎日たくさんの宿題を出され、寮に帰ってきたらまずは勉強するような日々を送っていました。時には深夜までかかりました。

中にはジョークでみんなを笑わせる先生もいたりして、授業に飽きることはありませんでした。クラスメイトは世界各国から集まっています、休み時間に話したり一緒にご飯を食べたりして楽しく過ごすことができました。



毎週の水曜日にコーヒートークという、留学生と一般の学生が交流する場を設けるイベントによく参加していました。コーヒーやクッキーなどを味わいな

毎週の水曜日にコーヒートークという、留学生と一般の学生が交流する場を設けるイベントによく参加していました。コーヒーやクッキーなどを味わいな

がら、自由にお喋りができるので交友の輪が広がりました。

留学の思い出は数えられないほどありますが、何ととっても、いろんな文化と価値観を持つ人と話せたことが私にとってとてもいい経験になりました。だから、留学中の一つ一つの出会いは全部宝物です。人との出会いが私を変え、成長させてくれました。帰国前に帰らないでとか寂しいと言ってくれて、空港まで見送りに来てくれるような友達ができて心から嬉しく思います。

では、これからは留学中の生活について少し紹介したいと思います！

イースタン・ワシントン大学はとても小さい町にあるので、買い物などはよくバスに乗って近くのスポケーンという町に行きます。日本の食材を手に入れられる店とか、美味しい日本食が食べられるレストランもあります。

大学の設備はとにかくすごいです。学生なら無料で使えるジムやボルダリング、プールなどもあります。



スポケーンのダウンタウン



学食で美味しかったもの

学校にレストランがいくつかあって、食事は毎日そこで食べていました。美味しくてよく食べていたのはパスタやシーザーサラダなど。あとフライドポテトもかなりの頻度で食べていました。アメリカの食べ物はハズレもありますが、美味しいものは美味しいです。でも食生活に気を付けないととことん太ります。

アメリカ人はとてもフレンドリーなので、レジで普通に会話したり、すれ違いの人に服褒められたり、知らない人に話しかけられたり…そしてドアを開けて待つくれるレディーファーストのところも含め、その国民性に魅力を感じました。

他にも、2週間の休みを使ってロサンゼルスとラスベガスに旅行したり、週末に車で片道5時間かけてシアトルに行ったりして、いろんな場所に足を伸ばして留學生活を充実させました。

私は留学という素晴らしい経験を経て、世界がとても広がりました。留学に興味があるのなら、ぜひ行ってみてください。



絶対に行ってよかったと思えるはずです。